

特集 「協働」と「まちづくり」を視点においたプログラムづくり

ボランティア体験月間の取り組み

スタッフの養成と 高校生の主体性を育てるプログラム

浜松地区高校生ワークキャンプ

浜松市社会福祉協議会(静岡県)

県内各地でスタートした歴史ある事業

もともと「高校生ワークキャンプ」(以下、ワークキャンプ)は、青少年に対する福祉・V体験を目的として昭和52年に静岡県下でスタート。中でも、昭和54年からワークキャンプへの取り組みを始めている浜松地区では、参加者である高校生が「主体性をもって、やりたいことを発見する」ためのプログラムづくりに重点を置いている。

一方、運営に関しては、Vスタッフが「企画から高校生へのサポート」までを社協職員と同じ立場で行っているのが特徴である。このVスタッフは、ワークキャンプOB・OGが中心で、体験後2~3年の若手からスタッフ歴10年の社会人まで幅広く、想いをもった彼らが自発的に新たなスタッフを誘うため、社協事務局ではスタッフ募集をしていない。

ここでは、地域の養護学校生徒との交流活動を行った昨年度のプログラム(高校生25名、養護学校生10名、スタッフ25名が参加)を中心に、高校生とVスタッフの実際の取り組みを紹介する。

ボランティアスタッフが高校生をサポート

ワークキャンプのプログラムは、全3回の「事前研修」と泊3日の「本研修」、「事後研修」で構成されている。

まず事前研修では、車いすの操作方法などの福祉学習を行ったほか、高校生が「やってみよう」を出し合い、本研修での活動内容を決定。「何を、どの位の時間でやるのか」、「誰がどんな役割

本研修の
カリキュラム

時間	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月10日(土)						受付	開講式	昼食	グループワーク	夕食			交流会				消灯
11日(日)	起床	清掃	朝食	実践交流活動	昼食	実践交流活動	夕食	入浴	夕食	グループ別反省会							消灯
12日(月)	起床	朝食	活動報告書作成	昼食	全体会	清掃	開講式										

を担うのか」などの方法も自分自身で決めながら展開していった。一方、Vスタッフは、研修が始まる1カ月以上前から27回にも及ぶスタッフミーティングを実施し、各研修の運営についてきめ細かい打合せを重ねた。役割分担としては、班の中に入って高校生を直接サポートするスタッフと、食事の仕込みなど運営業務を担うスタッフに分かれ、本研修での実践活動に備えた。

なお事後研修は、これまでの活動をふりかえって、お互いの意見や想いを発言・確認しあうなど、あらためて自分を「表現すること」の大切さを学ぶ場となった。



3班に分かれて、話し合い。掃除やレクリエーションなどの役割分担を決めたり、実践交流活動に向けての企画について議論を進めました。



「流しそうめん」での交流活動。流す方も受け取る方も、呼吸を合わせる事が大切です!

巣立った高校生の、今後の活動に期待

浜松市社会福祉協議会 地域福祉係 鈴木光昭さん

毎年夏休みに行ってきた高校生ワークキャンプも今年で26回目を迎えます。

このワークキャンプでは、高校生の主体性を育むとともに、スタッフも含めた「V育成」に力点を置いてプログラムを進めています。例えば、「5W1H」に沿った企画づくりもその一つですが、高校生には自分の行為や発言に対する意識付けから始まり、スタッフは「何を求めて参加してきたのか」、「どんな興味があるのか」、「どんな活動をしてみたいか」など、高校生一人ひとりに問いかけ、向き合ってきました。

ワークキャンプに参加する昨今の高校生を見ると、「総合的な学習の時間」の実施などにより、想いをもちアクションを起こそうとする高校生が増えている一方で、居場所を求めたり、人との関わりに悩む高校生も少なくありません。ワークキャンプでの出会いや発見をきっかけに、自分の想いをもち、人に伝え、共有することを学んだ高校生の方々には、ぜひ今後の活動につなげてほしいと期待しています。

また、運営のほぼ全てを担っているスタッフの中には、他イベントで中心的存在として活動したり、体験授業の講師として参加してくれる方もいるなど、今では社協の心強いパートナーです。

今秋は静岡県内で「全国障害者スポーツ大会」が開催されます。社協としては、体験プログラムを夏休みに展開しながら、障害者福祉に向けた地域づくりを進めていきたいと考えています。

レクリエーションを通して、 障害のある方と交流活動

ふれあい好流会

連合長崎(長崎県)

記念の年に、障害者との交流イベントを

平成13年6月、連合長崎は「心と体で感じよう」「バリアを取ろう」「みんなで遊ぼう」をキャッチフレーズに「第1回ふれあい好流会」(以下、好流会)を実施し、地域の障害者グループや各組合をはじめ総勢約300名が1日のふれあいを楽しんだ。

そもそも好流会は、どのようなきっかけでスタートしたのだろうか。連

合長崎では、結成10年を迎えるにあたり記念イベントのプログラム検討する中で、従来の賃金・労働状況アップという活動ではなく、社会課題に向けた活動を模索。その中で、青年委員会・女性委員会から「障害のある人もない人もお互いに触れ合えるような活動を」という提案があがり、実行委員会を結成した。

ところが「どうやって障害のある方と接すればいいのか」。実行委員会はまず、県社



「第2回事前体験学習会」。町に出て車いすの疑似体験



「ふうせんバレーボール振興会」の協力で、バレーボールを楽しんだ

協に働きかけ、「事前学習会」の必要性やノウハウ、関係機関の紹介を受けた。また、身体障害者協会を通じて障害者グループ、行政を通じて手話通訳Vの協力を得、事前学習会としてパネルディスカッションの実施に至った。なお第2回目以降からは、「視覚・聴覚・肢体」の3つのパートに分かれ、参加者同士がグループを組んで地域に出かける「体験学習会」へと発展している。

諸団体と協働でプログラムづくり

実行委員会には、学習会のメニューづくりに関わった障害者グループをはじめ、身体障害者協会からの紹介による学生ボランティア協会が参加し、多様な意見を採り入れながら企画立案を行った。こうして立案した企画は、その後、実行委員会の組合員に引き継がれ、実際の運営へと移っていった。

ここでは、昨年実施された「第2回ふれあい好流会」のプログラムを紹介する。

10:00	開会式～あいさつ～選手宣誓
10:20	競技・スケジュール説明など (1)準備体操 (2)ダンス指導 (3)ジャンケン列車
11:00	午前の部スタート (1)チーム作り・自己紹介 (2)電車リレー 昼食
12:00	(1)かけっこ(小学生以下)
12:30	(2)簡単な手話講座
13:00	午後の部スタート (1)団結の木 (2)風船バレーボール
15:00	閉会式～終了

福祉の充実をめざして、 県内を回って想いを伝えたい

連合長崎 副事務局長 泊 和利さん

記念行事をきっかけにスタートした「ふれあい好流会」も、今年で3回目を迎えることとなり、障害者グループ、組合員、学生Vなど約150名の参加を予定しています。

今年のプログラムは、昨年までのレクリエーション的なゲームから、少し競技制のあるゲームへと趣向を変えています。身体障害者協会から大学でレクリエーションV活動を行っている講師をご紹介いただき、「フリスビー」を使ってのゲームを教えていただきました。当日は、その学生Vさんも参加してくれることになっており、今から楽しみにしています。

また行政の協力もあり、第1回目は諫早市、2回目は長崎市、

3回目となる今年は大村市と、毎年開催地を変えていますが、これは、県内各所を回ることで、私たちの想いを各地域の行政施策に活かしていただきたいからです。もう一つは、各地域の障害者グループと連携イベントを行うことを通じて、地域の人々にもっと福祉について知ってもらいたいとの想いもあります。その効果が、長崎市内のボーリング場では障害者用のレーンができたそうです。

なお、これまで様々な機関・団体の参加を得てきた実行委員会では、今年から発展的解消をし、自立した形でプログラムづくりを進めてきました。

好流会の目的は、福祉の充実であり、皆さんとの「出会いの場」です。今後は、若者や企業の代表者、障害者の家族の方にももっと参加していただきたい。また、私は現在、老人ホームに勤務しているので高齢者との交流も行いたいですし、長崎は「離島」が多いですからそちらでも開催していければと考えています。

今年も『ボランティア体験月間』が始まります!

全国的なボランティア活動推進の機会です。

「協働」「まちづくり」の視点で魅力ある活動プログラムを用意し、V活動の推進を図りましょう

全国的な55のV推進機関・団体により構成される「広がれボランティアの輪」連絡会議(事務局:全社協・全国ボランティア活動振興センター)では、平成6年から、多くの人々が夏休みを利用して活動に参加しやすい7月・8月を、『ボランティア体験月間』として提唱し、V活動への参加を呼びかけています。

「ボランティアに関心はあるけれど、活動のきっかけがない」「V活動に取り組む時間がない」「どのようなV活動があるのかわからない」など、V活動に取り組みたい気持ちはあっても、V活動に踏み出すことができない方々が多くなります。

昨年夏の『ボランティア体験月間』期間中は、「広がれボランティアの輪」連絡会議構成団体をはじめ、各地で多様なプログラムが用意され、全国各地で13,900の活動プログラム、173,000名の市民が自らの希望と経験を活かした体験プログラムに参加しました。

Vコーディネーターおよび応援者として、『ボランティア体験月間』をV活動推進の好機ととらえ、今年度もそれぞれの立場から、積極的にプログラムを提案・実施しましょう。

今までのプログラムに「協働」「まちづくり」の視点を加えてみましょう!

プログラムを実施するにあたっては、地域諸団体との「協働」を図るという視点が重要です。他団体・機関との合同企画プログラム、1施設・機関だけのV活動にとどまらないプログラム、多様な世代が参加できるプログラム等が考えられます。

また、夏の『ボランティア体験月間』で取り組まれた企画・活動を契機に、その後の地域福祉推進・まちづくり活動につなげていく視点も必要です。

『ボランティア体験月間』については、「広がれボランティアの輪」連絡会議ホームページでも情報を提供します。ぜひアクセスしてみてください。

URL <http://www3.shakyo.or.jp/hirogarewa/index.html>

こんなプログラムをご用意しています!

「広がれボランティアの輪」連絡会議の構成団体のうち、3団体からメッセージが届きましたのでご紹介します。

大阪ボランティア協会

平時は月2回の「初めてのボランティア説明会」を、夏休み中は6回開催。「主に関西! ボランティア・市民活動情報ネット」(<http://cw1.zaq.ne.jp/osakavol/kvnet>)も、夏の活動情報など約1,000プログラムを掲載。

おもちゃの図書館全国連絡会

夏・体験ボランティアをいっぱいいただくために「よっToyで おもちゃの図書館」というパンフレットを全国に配布。また、地域での「ミニ学習会」を支援します。

読売光と愛の事業団

首都圏10カ所の重症心身障害児者施設へ、公募したボランティアを派遣します。今回の参加者らを対象に、国内でのボランティア経験者の社会的裾野を広げることを目的とした「海外ボランティア研修」を来春に実施。

「ボランティア体験月間」のプログラム数と参加人数の推移です

